

No 1

令和元年度 港区事務事業評価シート

評価対象

事務事業名	芝地区地域ふれあい事業	開始年度	平成 18 年度
所属	芝地区総合支所管理課管理係	種別	—
所管課長	芝地区総合支所管理課長		
基本政策	3 地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくる		
政策名	(11) 多様なコミュニティをつくる		
施策名	① コミュニティ意識の醸成		

事業概要

事業の目的	芝地区で地域のさまざまな方々のふれあいの場と交流の機会を提供するとともに、地域に潜在している人材や組織等の力を発揮できるようにします。
事業の対象	芝地区を中心に活動している団体・事業所、保育園や子ども中高生プラザ、いきいきプラザ等の区関連施設等で活動している団体及び地域住民
事業の概要	参加団体による実行委員会を組織し、出店部門を「地域ふれ愛マーケット」、コンサート部門を「地域ふれ愛コンサート」として実施しています。出店部門では、パネル展示やゲーム、飲食などの模擬店を実施。コンサート部門では、地域の方による合唱、バンド演奏、ダンスなど、日頃の練習の成果を披露し、来場者とともに地域のつながりや連帯感を深めます。
根拠法令等	なし

【ステップ1】①事業継続の必要性に係る評価

開始当時の背景・これまでの経緯	<p>本事業は、地域で活発なコミュニティ活動が展開し、多様な出会いと豊かなコミュニケーションを創出する「地域をつなぐ機会と場の充実」を推進するために開始されました。</p> <p>芝地区で活動する様々な団体・個人が参加し、環境にやさしい緑がある区立芝公園で交流し、参加した団体、個人等地域の人々が「ふれあい」、「環境」について考え、芝地区のメッセージとして発信します。</p>		
評価	A 高い	B どちらともいえない	C 低い
評価の着眼点 公益性 (情勢変化により区が実施する意義に変化はないか)	◎ 		
今日性 (情勢変化により区民ニーズとの不整合はないか)	◎ 		
①事業継続の必要性	◎ 		
①事業継続の必要性評価の理由	<p>(歴史的役割を終えていないか、区の関与は必要か、代替可能な事業はないか)</p> <p>芝地区の連帯感を深め、芝地区の活動団体の発表の場として定着している事業です。他地区でも同様の事業はありますが、地域の特性を最大限活かす場とすると、代替可能な事業はなく、継続の必要性が高い事業と評価します。</p>		

【ステップ2】②事業の効果性・③事業の効率性に係る評価

②事業の効果性に係る評価

事業の成果	指標1	参加団体数			指標2	来場者数（延数）			指標3	当初予定	実績	達成率
		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率				
	平成29年度	60	65	108.3%	平成29年度	6,100	6,200	101.6%	平成29年度			
	平成30年度	60	64	106.7%	平成30年度	6,100	6,200	101.6%	平成30年度			
	令和元年度	60	—	—	令和元年度	6,100	—	—	令和元年度		—	—
指標から見た事業の成果	芝地区を中心に活動している団体が日頃の活動の成果を発揮・発表する場として定着してきており、予定を上回る人数が来場しているほか、参加団体数も会場の都合から限られる中、毎年継続して参加する団体に加え、新たに参加する団体もあり、地域の多様な交流の促進が図られています。											
評価	A 高い			B どちらともいえない			C 低い					
②事業の効果性	◎											
②事業の効果性評価の理由	（事業の目的を実現できているか、区民のニーズに応える手段として妥当か） 地域の様々な団体や、子どもから高齢者まで多様な人たちが参加し、交流が図られており、事業の目的を実現できています。芝地区を中心に活動している団体が日頃の活動の成果を発揮・発表する場としての役割も担い、区民のニーズに応える手段として効果的です。											

③事業の効率性に係る評価

事業費の状況	年度	予算状況の内訳（千円）								決算状況（千円）		
		当初予算額	一般財源割合	一般財源	国庫支出金	都支出金	その他	流用	補正予算	予算現額	決算額	執行率
	平成29年度	8,550	100%	8,550	0	0	0	0	0	8,550	8,359	98%
	平成30年度	8,431	100%	8,431	0	0	0	0	0	8,431	7,831	93%
	令和元年度	9,264	100%	9,264	0	0	0	—	—	—	—	—
事業費から見た事業の状況	令和元年度は、参加団体数（飲食ブース数）の増加を見込んで、単価契約の物品数を増加させたため、予算額が平成30年度に比較して増額しています。 決算額は、毎年90%以上の執行率となっており、有効に予算を執行しています。											
評価	A 高い			B どちらともいえない			C 低い					
③事業の効率性	◎											
③事業の効率性評価の理由	（費用対効果や受益者負担等の観点から、コストに見合う成果が得られているか） 年に一度の開催ですが、事業コンテンツは区民活動そのものであるため、芝地区の住民や活動団体のつながりや連帯感を深めることが可能です。経費は企画補助、設営のみとなっており、費用対効果は高く効率的です。											

【ステップ3】
総合評価

○ 拡充 ● 継続 ○ 改善 ○ 統合 ○ 廃止

本事業に係る所管課の意見	
総合評価に係る具体的な理由（根拠）と来年度の実施内容（又は廃止後の対応）を記載します。 ・「拡充」：レベルアップ ・「継続」：現状維持 ・「改善」：対象範囲、事業規模、実施方法等の変更（一部廃止、縮小を含む） ・「統合」：他事業と統合	芝地区の連帯感を深め、芝地区の活動団体の発表の場として定着しており、地域住民等からの反応もある事業です。地域の方々と連携し、引続き実施してまいります。



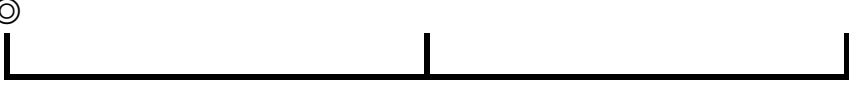
評価対象

事務事業名	芝地区保育園地域開放	開始年度	平成 9 年度
所属	芝地区総合支所管理課	種別	—
所管課長	芝地区総合支所管理課長		
基本政策	5 明日の港区を支える子どもたちを育む		
政策名	(22) 就学前児童ケアサービスを総合的に推進する		
施策名	④ 子育て支援サービスの充実		

事業概要

事業の目的	区立保育園の持つ力を提供し、楽しく子育てができるように支援するとともに、地域との交流関係を広げることを目的として実施します。
事業の対象	家庭において子育てを行う保護者と就学前の子ども
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・親（保護者）と子で集まれる場、安全に遊べる場を提供します。 ・参加者同士の親睦・交流の機会を提供します。 ・保育園の職員が助言、指導を行い、育児情報を提供するほか、必要に応じて個別相談を受付けます。 ・各保育園で、実施日、実施内容は異なります。 【例】 <ul style="list-style-type: none"> ・各年齢の保育室・園庭等で保育園児と一緒に、親子で遊ぶ。 ・遊戯室等で保護者同志の交流・相談 ・職員による育児知識の講話・遊び等の実技指導 ・給食の試食、栄養指導、園行事への参加
根拠法令等	児童福祉法、港区地域在宅子育て支援制度事業実施要綱

【ステップ1】①事業継続の必要性に係る評価

開始当時の背景・これまでの経緯	核家族化、少子化が進んでいる家庭や地域において、子育てに不安を持つ保護者が多くなっていることから、地域に開かれた保育園として、保育園の持つ力を提供し、楽しく子育てすることができるよう支援するとともに、地域の保護者同士のつながりを深めるため、平成9年度に事業を開始しました。開始当初は、保育園単独で事業を実施していましたが、現在は参加者を増やすため、児童館等との共同開催や乳幼児を対象とした他の子育て支援サービスと連携して実施している園もあります。		
評価	A 高い	B どちらともいえない	C 低い
評価の着眼点	公益性 (情勢変化により区が実施する意義に変化はないか)	◎ 	
	今日性 (情勢変化により区民ニーズとの不整合はないか)	◎ 	
①事業継続の必要性	◎ 		
①事業継続の必要性評価の理由	(歴史的役割を終えていないか、区の関与は必要か、代替可能な事業はないか) 保育園を地域に開放し、子育て世代の育児に関する不安や孤立を防止し、保護者同士の交流の場を提供することは、区として重要な役割です。一方で、子ども中高生プラザや子育てひろばなど子育て支援施設が増えているため、今後も各施設との連携や役割分担に取り組んでいきます。		

【ステップ2】②事業の効果性・③事業の効率性に係る評価

②事業の効果性に係る評価

事業の成果	指標1	延回数（回）			指標2	延参加者人数（人）			指標3			
		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率
	平成29年度	36	23	63.9%	平成29年度	230	162	70.4%	平成29年度			
	平成30年度	36	21	58.3%	平成30年度	230	161	70.0%	平成30年度			
	令和元年度	36	—	—	令和元年度	230	—	—	令和元年度		—	—

指標から見た事業の成果 子ども中高生プラザや子育てひろばなど、子育て中の親子が利用できる施設が充実してきたことで、開催回数は減少していますが参加者人数は横ばいです。

評価	A 高い	B どちらともいえない	C 低い
②事業の効果性	◎		
②事業の効果性評価の理由	（事業の目的を実現できているか、区民のニーズに応える手段として妥当か） 定期的に事業を実施することで、子育て世代に対する不安の解消や保護者同士の交流を図っています。保育の専門的な知識を有し、地域の状況にも詳しい保育士が育児に関する支援や相談を行うことで、事業を効果的に実施できています。		

③事業の効率性に係る評価

		予算状況の内訳（千円）								決算状況（千円）		
事業費の状況	年度	当初予算額	一般財源割合	一般財源	国庫支出金	都支出金	その他	流用	補正予算	予算現額	決算額	執行率
		平成29年度	121	100%	121	0	0	0	0	0	121	119
	平成30年度	115	100%	115	0	0	0	0	0	115	110	96%
	令和元年度	120	100%	120	0	0	0	—	—	—	—	—

事業費から見た事業の状況 本事業では、園で作る離乳食、乳児食の提供や通常保育で使用している遊具及び玩具、事務用品を活用しているため、支出経費は必要最低限となっています。

評価	A 高い	B どちらともいえない	C 低い
③事業の効率性	◎		
③事業の効率性評価の理由	（費用対効果や受益者負担等の観点から、コストに見合う成果が得られているか） 保育園の人的・物的資源を活用し、必要最低限の経費で事業を実施しているため効率的です。		

【ステップ3】
総合評価

○ 拡充 ● 継続 ○ 改善 ○ 統合 ○ 廃止

本事業に係る所管課の意見 総合評価に係る具体的な理由（根拠）と来年度の実施内容（又は廃止後の対応）を記載します。 ・「拡充」：レベルアップ ・「継続」：現状維持 ・「改善」：対象範囲、事業規模、実施方法等の変更（一部廃止、縮小を含む） ・「統合」：他事業と統合	本事業は、区立保育園を地域に開放することで、子育て世代の育児に関する不安の解消や孤立化を防ぎ、保護者同士の交流の場としての役割を担っています。また、既存の施設と保育園職員の専門知識を活用し、最小限の経費で事業を実施できていることから、事業の継続は妥当です。一方、本事業の開始当初と比べて、子ども中高生プラザや子育てひろば等の子育て支援施設が充実してきているため、引き続き、他の各施設との連携や役割分担に取り組んでいきます。
---	---

【ステップ2】 ②事業の効果性・③事業の効率性に係る評価

②事業の効果性に係る評価

事業の成果	指標1	参加者数			指標2				指標3			
		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率
	平成29年度	10	9	90.0%	平成29年度				平成29年度			
	平成30年度	10	15	150.0%	平成30年度				平成30年度			
	令和元年度	10	—	—	令和元年度		—	—	令和元年度		—	—
指標から見た事業の成果	平成29年度に比較して平成30年度はより多くの参加者数を確保し、事業を実施することができました。複数の視点から区民の意見や要望を把握することができたほか、区長から区の施策等について考え方を示すことができました。											
評価	A 高い		B どちらともいえない						C 低い			
②事業の効果性	◎											
②事業の効果性評価の理由	(事業の目的を実現できているか、区民のニーズに応える手段として妥当か) 区民が区長と話すことのできる機会であり、自分の意見や要望を伝えたいという区民ニーズに応える事業であり、区民等の意見・提案を地域事業等の施策に反映することができることから、事業の有効性や効果は確保されています。											

③事業の効率性に係る評価

事業費の状況	年度	予算状況の内訳(千円)									決算状況(千円)	
		当初予算額	一般財源割合	一般財源	国庫支出金	都支出金	その他	流用	補正予算	予算現額	決算額	執行率
	平成29年度	43	100%	43	0	0	0	0	0	43	23	53%
	平成30年度	43	100%	43	0	0	0	0	0	43	39	91%
	令和元年度	12	100%	12	0	0	0	—	—	—	—	—
事業費から見た事業の状況	決算額は、手話通訳派遣の未執行及び反訳委託の契約落差が発生したことにより、執行残が発生しています。議事録作成ツール導入に伴い会議録反訳の委託料が削除されたため、令和元年度予算から減額しています。											
評価	A 高い		B どちらともいえない						C 低い			
③事業の効率性	◎											
③事業の効率性評価の理由	(費用対効果や受益者負担等の観点から、コストに見合う成果が得られているか) 経費は妥当かつ効率的です。より多様な区民各層が参画できる時間や場所等の設定を検討する必要があります。											

【ステップ3】
総合評価

○ 拡充 ● 継続 ○ 改善 ○ 統合 ○ 廃止

本事業に係る所管課の意見	
総合評価に係る具体的な理由(根拠)と来年度の実施内容(又は廃止後の対応)を記載します。 ・「拡充」：レベルアップ ・「継続」：現状維持 ・「改善」：対象範囲、事業規模、実施方法等の変更(一部廃止、縮小を含む) ・「統合」：他事業と統合	区長が直接区民から意見・要望を聴取できる機会であり、集団広聴の一環として今後も継続すべき事業であると評価します。しかし、区長と語る会のため、参加する区民からは区政全体への意見・要望となりがちであるため、総合支所単位でのテーマ設定に工夫の余地があります。